

検証授業では、個を生かす学習の場の工夫として、高さの異なる跳び箱やロングマット、ロイター板などを、児童一人一人が自分の判断で使用できるように配慮しました。児童たちは、「よいところカード」での自己評価と相互評価によって勇気づけられ、いきいきと課題に取り組みました。

特に、後半の発展学習では、技の組み合わせや表現に児童一人一人の特色や工夫が見られ、単に技能だけでなく、組み合わせと表現力に個性の一端が現れたように思われました。

児童たちのカードの分析、事後調査などから、基礎・基本が定着し、個性もまた生かされ伸ばされつつあることは検証されました。この授業実践の記録の詳細については、県教育センター発行「平成三年度研究紀要」をお読みいただきたいと思えます。

四 研究のまとめ

五年にわたって実践研究してきた教科は、国語、社会、数学、図画工作、英語、算教、体育の七教科にのぼります。教科外としては、道徳でも実践しました。これらについては、当該年度の県教育センター発行「研究紀要」を読んでいただければと思います。

なお、国語、社会の実践については、福島県教育研究所連盟より「個性を生かす学習指導」(ぎょうせい)として発行されています。

また本年五月、全国教育研究所連盟により発行された「個を生かす教育の実践(上下)」

(ぎょうせい)には、福島県教育センターの実践例が数多く紹介されており併せてお読みいただけるようお願いいたします。今年度からは、「一人一人の個性を生かす評価の在り方に関する研究」という主題のもと、三年計画で取り組んでおります。

〔研究協力校〕 福島市立平野小学校

(図1) 実践授業のねらいと具体的な手だて

授業	時間	指導のねらい	具体的な手だて
			<ul style="list-style-type: none"> ○「よさ」の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・行動特性の調査 ・体育科における興味・関心、意欲の調査 ・マット運動と跳び箱運動の興味・関心、意欲の調査 ・運動能力の調査
	1・2	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の技(第1学年～第3学年)の復習をさせ、できない技については、個々の課題とし練習させる。 ○新しく学習する技を体験し、練習させる。 ○技の繰り返し、連続技を練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「よさ」の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードへの助け合いの記録 ・運動の復習と技能の向上 ○「よさ」を生かす <ul style="list-style-type: none"> ・主運動と主運動との組み合わせ ・単元計画の工夫 ・異質グループの編成による自力解決の設定と工夫 ○「よさ」の意識化 <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの活用(自己評価・相互評価・教師からの評価) ・個人カルテの活用(情意面の自己評価) ○コース別学習の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・異質グループ編成による個々の課題解決の場の設定の工夫 ・発表の場の設定 ○「よさ」を生かし伸ばす <ul style="list-style-type: none"> ・創作活動での自力解決や、相互協力の場の設定
	3・4	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の技を組み合わせた連続技のコースや今回学習する技を組み合わせた連続技のコースを選び、練習させる。 ○技のつながりの工夫をさせる。 ○より多くのコースを達成させることにより、基礎・基本の定着を図る。 ○班内で発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コース別学習の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・異質グループ編成による個々の課題解決の場の設定の工夫 ・発表の場の設定 ○「よさ」を生かし伸ばす <ul style="list-style-type: none"> ・創作活動での自力解決や、相互協力の場の設定
	5・6	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を生かし、自己の能力に適した連続技を考える。 ○独創的な連続技に仕上げさせる。 ○上手になった人の工夫点やつながりのおもしろさを強調し着目させる。 ○班内で発表させる ○班代表を選出し発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「よさ」を生かし伸ばす <ul style="list-style-type: none"> ・創作活動での自力解決や、相互協力の場の設定 ○コース別学習の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・異質グループ編成による個々の課題解決の場の設定の工夫 ・発表の場の設定
課題把握と解決			
学習内容の理解と定着			
発展学習			

(図2) ブルーコース

